

泉佐野丘陵部緑地基本計画(案)に対する府民意見等の募集結果
意見等の概要と府の考え方

該当項目	番号	意見	回答
0. はじめに	1	基本計画(案)を基本的に支持し、積極的に推進されることを期待。その上で、近年、環境意識が高まりから「自発的に環境に働きかける」欲求を満足させ、環境との相互作用の中で幸せに利用できる公園にするべき。	ご意見のように、自発的に環境に働きかけられるような様々な活動が行われる公園づくりを行っていきます。
	2	多くの立場・意見を有する人びとが参加できる開かれた委員会にすべき。また、地域の自然に詳しい方や地域の大学の先生などにも参加してもらおうべき。	「6. 公園運営方針」の(3)時系列に応じた運営展開についての図に見られますように多様な構成メンバーからなる運営会議を設立していきます。
1. 全体テーマ	3	どんな公園になるのか具体的にイメージが湧くように、分かりやすく書くべき。	公園のイメージをわかりやすく伝えるために、キーワードを設定しています。山の辺の「えん」とは、学び、遊び、食、芸術などに関するプログラムをみんなで演出しながら展開していくことを想定しています。こうしたテーマのもとに、公園のみどりを通じて季節の色や味で歓待する「山の辺のこころ」を展開していきたいと考えています。
	4	「えん」「いろ」「こころ」は、現地のイメージではない。また、後の事業展開に結びついていないのでは。キーワードによる全体テーマの設定という手法はシナリオ型公園の計画には合わないのでは。	こうした展開は、多くの方々の活動に支えられないと展開できません。多くの方々と公園の将来像を具体的にしていきたいと考えています。また、こうした将来像や公園での活動展開といった公園に関する情報を運営会議を通じて分かりやすく発信していきたいと考えます。
	5	アクセスしにくい公園を、たくさんの人に利用してもらうためには仕掛けが必要。特徴のある植物、障害者や高齢者が散策を楽しめるような園路など。また、建物はメンテナンス費が発生する上に、リピーターが見込めないと無駄になるが利用者やボランティアに開放されるパークセンターは必要。	これからの公園運営は、利用者が行政とともに管理・運営に関わるための仕組づくりが、ポイントになると考えられます。公園と人々が関わるための仕組を、公園の運営の中でしっかりと構築していきます。こうした仕組を構築するための事業手法として、「シナリオ型の公園づくり」を行います。「シナリオ型の公園づくり」は公園の将来像を具体化する方法を、府民・事業者・行政等が考えて、評価のうえで見直すことであり、運営会議の参加者でつくりあげていく「シナリオ」は大切なものとなると考えています。また、公園と人々が関わっていくためには、「将来像の共有」が大切となると考えています。分かりやすい公園運営と情報発信を大切にしながら、運営会議を通じて公園づくりを進めていきます。
	6	これからの公園は、公園利用者が行政の人々とともに、どのように維持管理に関わってゆくかについての工夫が重要。テーマについても、人との関わりが見える文言にしてほしい。	これからの公園運営は、利用者が行政とともに管理・運営に関わるための仕組づくりが、ポイントになると考えられます。公園と人々が関わるための仕組を、公園の運営の中でしっかりと構築していきます。こうした仕組を構築するための事業手法として、「シナリオ型の公園づくり」を行います。「シナリオ型の公園づくり」は公園の将来像を具体化する方法を、府民・事業者・行政等が考えて、評価のうえで見直すことであり、運営会議の参加者でつくりあげていく「シナリオ」は大切なものとなると考えています。また、公園と人々が関わっていくためには、「将来像の共有」が大切となると考えています。分かりやすい公園運営と情報発信を大切にしながら、運営会議を通じて公園づくりを進めていきます。
	7	本公園の特徴は「シナリオ型の公園づくり」ですが、多様な主体が(ひとつの)明確な将来像を共有しうるのか疑問。	これからの公園運営は、利用者が行政とともに管理・運営に関わるための仕組づくりが、ポイントになると考えられます。公園と人々が関わるための仕組を、公園の運営の中でしっかりと構築していきます。こうした仕組を構築するための事業手法として、「シナリオ型の公園づくり」を行います。「シナリオ型の公園づくり」は公園の将来像を具体化する方法を、府民・事業者・行政等が考えて、評価のうえで見直すことであり、運営会議の参加者でつくりあげていく「シナリオ」は大切なものとなると考えています。また、公園と人々が関わっていくためには、「将来像の共有」が大切となると考えています。分かりやすい公園運営と情報発信を大切にしながら、運営会議を通じて公園づくりを進めていきます。
	8	「シナリオ型の公園づくり」という表現は、「府民にシナリオを読ませ躍らせる」ことを懸念させる。「21世紀の新しい公園づくり」にシナリオは必要か。	これからの公園運営は、利用者が行政とともに管理・運営に関わるための仕組づくりが、ポイントになると考えられます。公園と人々が関わるための仕組を、公園の運営の中でしっかりと構築していきます。こうした仕組を構築するための事業手法として、「シナリオ型の公園づくり」を行います。「シナリオ型の公園づくり」は公園の将来像を具体化する方法を、府民・事業者・行政等が考えて、評価のうえで見直すことであり、運営会議の参加者でつくりあげていく「シナリオ」は大切なものとなると考えています。また、公園と人々が関わっていくためには、「将来像の共有」が大切となると考えています。分かりやすい公園運営と情報発信を大切にしながら、運営会議を通じて公園づくりを進めていきます。
	9	景観を重視した公園づくりに大賛成。泉佐野丘陵の特性を生かし、日本の植物が咲き乱れ、ホタルが舞うような、たくさんの種類の鳥・虫・動物が生息	景観緑三法が平成17年度に施行されたことから、みどり景観づくりはこれからの大切なテーマと考えています。現地の景観と自然を生かしなが

		する、日本の原風景があふれる場所にすべき。	ら、多くの方々が活動し、様々な利用ができる公園づくりを、運営会議を通じて行っていきたいと考えています。
	10	「景観を重視した公園づくり」は20世紀後半にすでにテーマにされてきたのでは。	
	11	この公園は農地の跡につくりますか。農業が見直され、地産地消の声が高まっているので、「1)立地環境」には農業も入れるべきです。	ご意見を参考としながら、家族や団体のコミュニケーションや学習の場としても機能する公園づくりを行います。こうした公園での活動の一環で、棚田跡地を生かした畑づくりなどの活動は十分に展開できると考えています。また、貴重な文化資源などの地域資源と連携しつつ、地域を活性化させる公園づくりを、運営会議を通じて進めていきたいと考えています。
	12	ビオトープや畑の貸し出しをしようか。来園頻度が上がり愛着もわく。家族や団体のコミュニケーションや学習の場としても機能するのではないかと。	
	13	麓の日根野、上之郷、土丸、別所地域には、国宝、重要文化財や伝統文化、良好な田園景観があるので計画に盛り込んで。また、計画地と周辺は農林業が行なわれてきた場所、地域の“産業文化財”として活用することが大切。	
	14	健康やコミュニケーションの視点も欲しい。広い芝生広場の周りに健康器具ベンチや健康遊具のコーナーなどを設置する、健康運動の有資格者を配置するなど。	健康やコミュニケーションの視点も取り入れて公園づくりを、運営会議を通じて行います。
2.3地区の目標像と事業展開方針	15	シナリオ型なのだから、利用者の増加にあわせて順次整備する区域を拡げることとし、基金の設置、流動的な整備計画の見直しなど、従来の年度単位の予算枠を取り払う手法を検討いただけたらと思います。	公園づくりは、段階的に行っていきます。こうした段階的な事業展開においては、未開設区域の管理や公園開設後の管理費用は大変重要であると考えています。整備計画につきまちは、PDCAサイクルにより実践するとともに、年度単位の予算枠についても流動的な運用が図れる手法などを検討していきます。
	16	整備してから景観が落ち着いてくるまでには長期間必要。無理やり9年間で整備し、一部を開園してもその後の事業予算が担保されないのであれば、荒れ放題になってしまう恐れがある。	
	17	想定来園者数25万人は過大ではないか。25万人を前提とする施設計画では、箱物に過剰に投資することになるのでは。	想定来園者数は近隣の府営公園の入場者数などからも想定しています。来園手法や地域との連携を検討しつつ、多くの来園者が訪れていただけるよう、良好な公園づくりを、運営会議を通じて行いたいと考えています。
	18	車による来園だけを想定すると、一部の人にしか利用ができない。また不法投棄を誘発する。自転車の活用や、貸農園、近隣農地の一体的な活用などを考えて欲しい。	
	19	近隣に美しい山・ハイキングコースがあるが、トイレ・駐車場が少ないなど利用しにくい状態。公園に予算を使うより、周辺地の整備に予算を使った方が、少ない費用で地域を活性化することができる。	公園の整備においては、地震等による土砂災害・山火事等がおきないように、安全について検討して公園基盤の整備を行います。また、訪れる方々の安全確保を行なったうえで、自然を感じるウォーキングコースなど、魅力ある施設の検討を運営会議において行うとともに、パークセンターの設置などにより、地域活性化の拠点としての機能も持たせて公園整備を行います。
	20	近隣の稲倉池と新池は調査で地震に対して安全性を確保できないと推定されている。防災面からみて望ましい整備手法を専門家の意見を聞いて考えるべき。	
	20		

	2.1	車も通行可能な道(緊急時も含め)、自然に触れて感じるウォーキングコース、サイクリングロードなど様々な形態の園路を設置すると良い。		
	2.2	子どもが安心して遊べるスペースの確保に力を入れていただきたい。		
	2.3	パーククラブの養成には、コミュニケーションスキルやホスピタリティマインドを入れるべき。	従来から活動されている方々を含め、広く公募を行って参加していただくよう、パーククラブの養成講座を行うとともに、パーククラブ代表者や学識経験者等からなる運営会議を開催しつつ、多くの方々が意見交換できる運営の仕組みを構築していきます。講座プログラムにおいては、コミュニケーションスキルを大切にして展開していきます。	
	2.4	この基本計画(案)ができるまえから活動している方々を公園づくりにおいて大切にすることが必要である。		
3-1. 中地区の整備方針	2.5	パークセンターとはビジターセンターのことですか。		パークセンターは、公園利用者に情報を発信し、活動する人々を支援する施設であり、様々な利用形態がとれるように、空間に仕切りを入れないフリールーム型として整備していきます。ご意見をいただいたように、イベント利用のための設備についても、運営会議を通じて検討するとともに、いろいろなプログラムを効率的に行える運営形態を構築していきます。
	2.6	プログラムへの飛び込み参加については非常によいと思うが、教材や指導者・受付人員等の問題もあり大変だと思う。パークセンターにタッチパネルで各自申し込みをして、会計(レジ)で参加費を払い、首かけ名札に番号をつけて持参してもらうなど、予約もできるが、現場で興味を持った時に随時参加できる効率的なシステムを検討すべき		
	2.7	パークセンターは入口近くに大きなものを作り、様々な利用ができる方がよい。間仕切りを使い、遠足の雨天時など様々に使える構造がよい。駐車場も広く確保し、使用しないときはスポーツやイベントに使えるなど。ドッグランやキッズ遊具が近くにあれば多世代で訪れ、それぞれの楽しみ方を満喫できるのでは。		
	2.8	時代は、パブリックコメント(意見公募)から建設の是非についても協議するパブリックインボルブメント(住民参画)の時代へと変わっている。 この山里にかかわってきた人々から如何なるハード整備が必要か意見を聞いて公園づくりを行うべき。		
	2.9	序幕から二幕にかけてのイメージですが、行政任せに立派な計画を作ってもらうほど府民の自発的な参画意欲は低下していくので、序幕から積極的に関わる仕組みが重要となる。府民やボランティアが公園づくりの主体となるよう、こうした人々の原動力を誘発する工夫が必要。		
	3.0	地域住民と協働する公園づくりが必要不可欠であるという時代なので、公園計画の策定以前から活動してきた人々と連携・融合していく取り組みが必要。また、序幕から多くの地域住民		

		が参加できる場をつくられてはいいかがか。	
	31	特性要因図の中にある「視点場」についてですが、海の方、山の方にと視野が開かれていますので、「大阪湾や淡路島に沈む夕日の景」、「関西国際空港を離発着する飛行機の景」、「眼下に広がる上之郷の町並みと田園の景」、「雄大な山々が連なる和泉山脈の景」などを「視対象」にしてはどうか。また、地域からどのように見られるかという視点も重要。	本公園から多くの景色が眺められます。また、外部からどのように見られるかも大切な要因と考えております。そのため、内外の景観を大切にすることを公園づくりを行いたいと考えています。こうした景観は、計画地の魅力や自然・景観等の自然を探していく手段である「エクスプローラーパス」によりパーククラブの活動を通じて発掘していきます。発見した資源は、運営会議を通じて公園整備に生かしていきます。
	32	エクスプローラーパスを序幕から行うというの、掲げられた写真を見ると、すでにあちこちで実施していることだと理解していいか。	
	33	4. 利用活動方針・イメージ に農業的営みを追加してはどうか。棚田跡地で行われていた農業活動を行い、収穫物を活かした公園運営を行うこともいい。また、今も利用されている向井池、谷口池の水利施設など、農空間のデザインを取り入れてはどうか。	ため池や棚田跡地は重要な資源と考えております。棚田跡地を生かした畑づくりや、現地に残る池や樹林などを活かした公園づくりを、運営会議を通じて進めていきます。
	34	駐車場近くに視覚で園内のことがわかる仕掛けが必要。	案内板を駐車場に設置するなど、わかりやすく園内の情報発信を検討していきます。
	35	レンタサイクルを設置し、時間が無くても園内を回れ、ちょっとした運動や気分転換ができる仕組が有効。	ご提案は、運営会議での検討の参考とさせていただきます。
3-2. 西・東地区の整備方針	36	[花のみち、光のみち、音のみち、彩のみち]など具体的な名称は、事業イメージを固定化するもので表現しないほうが良いのでは。	特色ある道を作るということの例示として具体的な名称を記入しました。親しみやすい名称などを、運営会議を通じて考えていきます。
4. 公園運営計画等	37	「開園後は、府民参画の活動プログラム等を展開する。」に大賛成。より具体的・实际的に参画できることを期待。よいプログラムは企画力と人材に尽きる。企画と人材をバックアップするのが公園側のひとつの仕事。活動団体間の親睦・連携をはかり、個々の力が団体の力になるよう目的意識をもって活動していくようにすべき。	環境学習やレクリエーションなど様々な活動プログラムは、パーククラブが企画し、運営会議の承認を得て展開することになります。公園でのプログラム活動の要となる人材の育成は、パーククラブの養成講座等を通じて行ってまいります。
	38	遠足に対応できる企画の作成が大切。季節や公園の特長を生かした、自然体験活動プログラムを提供したり、森の案内人、パークレンジャーを養成し実践できるようにすべき。	
	39	年に1,2回公園の自然に親しみ、学ぶ「ウォーク・ラリー」を活動団体と協力して開催することを提案。オリエンテーリング風に、ポイントを作り、参加者が問いに挑戦しながら自由に歩けるように工夫。	

40	何をしてもよい「子どもの基地のような」スペースを作る。親子や友だち同志で参加でき、その自然にあるものを利用して自由に遊び、創作する、木登り等ができるような、子どもの基地づくりを行うべき。	
41	人は知らないことがわかったり、謎がとけたりすると嬉しく、得した気分になる。人から話を聞いたり、ヒントを与えてもらったりすると、より自然に目が向くようになる。さりげなく学べる情報を提供するとよい。邪魔にならないような説明板や木にぶら下げたヒント、パークセンターに置く資料など。	
42	既存の里山ボランティアにおいても、座学と実習を受けた後に活動に入るが、家庭菜園をつくるなど里山と結びつかないような方向に流れてしまうことがある。そうならない仕組みはあるか。	<p>本公園では、里山の保全活動だけではなく、現地の自然を生かして多くの人が幅広く活動・利用できる公園づくりを行ってまいります。</p> <p>公園運営の根本は、公益性の確保ですので、初めての方でも気軽に参加できるように、パーククラブの養成講座を開講して、従来活動されてきた方々や地元の方をはじめ、人材を幅広く公募してまいります。また、パーククラブ代表者や学識経験者などで構成される運営会議を通じて、公平で公正かつ、魅力ある公園づくりをすすめていきます。</p>
43	大阪府と学識者、パーククラブ主体の会議では、地元から浮いた異質な空間になる恐れがある。地域や公園計画前から活動してきた団体などとの連携が大切。また、既存ボランティアは閉鎖的になり一般参加者が入り難くなる可能性がある、オープンな運営を確保する仕組みが必要。	
44	行政だけでも、住民だけでも何もできない。見せかけではない、本当の協働が必要だが、お互いに相手の誤りを指摘しあう状況が多いように見受けられる。頑張っ、行政が先に謙虚さを見せていただくと幸甚。	
45	声の大きい人や昔から活動している人が権利ばかり主張することがある。協力しあえば、より良い活動になると思う。この公園では初めての人も遠くから来た人も、みんなが気軽に参加しやすい雰囲気や仕組みを考えるべき。	
46	基本計画(案)に賛成。いろいろな団体と活動しているとやりたいことや主張が異なり、なかなか話がまとまらない。もちろん、みんな一生懸命にボランティアをしている訳だが、公平で中立な立場の調整役が必要。	
47	講座を開講し、修了生を一つの団体に押し込める必要は無い。府民や団体にも、いろいろな考え方があり、活動を固定化していく必要はない。	
48	何もかも整備してからではなく、駐車場やトイレなど基本施設ができたところで、順次、開園していく方がよい。また、9年間の長期予算を先に組んでおき、事業毎にコンペなどを行い、進めていくことはできないか。	

	49	時系列の中でPDCAサイクルが取り入れられていることは大変素晴らしい。序幕、一幕、二幕に書かれた内容が今後の展開に固定感を与えることなく、良い意味での変化を認める余地を表現してはいかがでしょうか。	
	50	運営会議やパーククラブは、運営が大変な割りには、なかなかよい展開に結びつかない。細かい運営は、コンペ等により公募して任されてはどうか。また、釣り人や生きもの乱獲対策など、公園運営で一番大事なことが抜けているように思う。ランドデザインを立案し、各々の事業や運営の妥当性を判断し、誘導・指示する機関が必要。	ランドデザインを立案し、各々の事業や運営の妥当性を判断し、誘導・指示する機関として、運営会議を位置づけています。また、さらに細かな運営は、公募によるパーククラブが担うこととしております。
	51	この土地は泉佐野市民ですら、よくわからない場所であり、また、自家用車のない人は行くことが困難。この土地を有効に利用するためには車の乗り入れをどうするかについてよく考えないといけない。また、近くの道路で不法投棄が多いので対策が必要。	多くの人に訪れていただけるよう、道路案内標識の設置や、各種広報による来園案内などについて検討していきます。また、関係機関とも連携しながら、不法投棄を防ぐ公園運営を行います。
その他	52	基本計画(案)の全体に言えるのですが、わかりにくい表現、わかりにくい言葉づかい、わかりにくい用語が多々見られる。	今後、公園運営においては、分かりやすい情報発信に努めます。

< 回答文中で多く使用される語句の説明 >

1) 運営会議

パーククラブ代表者、学識経験者、大阪府などから構成されます。公園内活動のコーディネートや活動に伴う整備形態等の共有、他の施設や組織等とのネットワークづくりなど、公園整備や管理運営について検討を行います。

2) パーククラブ

広く一般府民から公募し、運営会議が主催する講座を受講した修了生によって運営される組織です。みんなで公園を育てていく母体となります。

運営会議で協議・決定した方針のもとに、公園づくりや府民参画による活動プログラム等を展開します。

3) シナリオ型公園づくり

泉佐野丘陵部緑地の公園づくりのテーマのひとつです。

様々なジャンルの活動主体(パーククラブ)が、明確な将来像のもとで話し合いながら活動を展開し、息長く事業を推進していきます。将来像の実現に向けた戦略と手法を、一つの脚本(シナリオ)として共有し、そのシナリオ成果の評価と再検討を行いつつ、みんなで育てる公園づくりです。

公園づくりのシナリオは、運営会議を通じて、公園づくりに参加する皆様で作成していくもので、決められたシナリオがあるものではありません。